# みやぎ水素エネルギー利活用推進ビジョン　概要版

## 策定の趣旨

- 地球温暖化や化石燃料の枯渇が懸念される中，水素をクリーンエネルギーとして利活用する取組に注目
- 家庭用燃料電池(ｴﾈﾌｧｰﾑ)に加え，燃料電池自動車(FCV)の市販等，身近なところでの水素の利活用が進展
- 国は水素社会の実現に向けた積極的な取組姿勢を明確化。関連産業や一部自治体も取組を拡大

**水素エネルギーの利活用に向けた本県の姿勢を明らかにし，関連施策の方向性を示す**

## 水素エネルギーの有用性

(1)環境負荷の低減
- 利用段階で二酸化炭素を排出しないため，地球温暖化の防止に貢献
- エネルギー効率が高く，省エネにも期待

(2)エネルギー供給源の多様化
- 水素は化合物として無尽蔵に存在
- 水素は再エネなど様々な方法で製造可能

(3)経済波及効果
- 今後成長が見込まれ，幅広い業種にチャンス
- 産業振興や雇用拡大にも期待

(4)災害対応能力の強化
- 自立･分散型電源として非常時対応に期待

## 宮城県において取り組む意義

- 復興途上にある本県において，災害対応能力の強化，環境負荷の低減，経済波及効果が期待できる施策
- 仙台圏域に水素ステーションを設けることで，東北各県にＦＣＶで移動することが可能
- ＦＣＶが販売され，水素･燃料電池への社会的関心が高まっている今が取組の好機

## 基本方針

災害対応能力の強化，環境負荷の低減，産業振興でも効果が期待できる水素エネルギーの利活用推進に向けた取組を積極的に進め，**「東北における水素社会先駆けの地」**を目指す

## 取組の方向性

- 水素エネルギーを活用した災害に強いまちづくり
- 水素エネルギーを活用した環境負荷の少ない地域社会づくり
- 水素エネルギー関連産業の育成･活性化

## 利活用推進に向けた課題

(1)水素ステーションの整備･運営
- 水素ステーションの整備には多額の経費が必要
- FCV普及初期には先行整備者が不利

→ **自治体と国，整備事業者が連携した整備が必要**　（国へ財源措置を求める必要もあり）

(2)ＦＣＶの普及
- 現時点で高価なため，普及拡大に相当の期間
- FCVの水素充填需要が少ないと，水素ステーションの自立的運営も困難

→ **FCVの普及に向けて初期需要の創出が必要**

(3)エネファームの普及
- 国の補助を受けてもまだ高額
- エネファームの認知度やメリットへの理解が不足

→ **エネファームの普及に向けた仕組みづくり，認知度の向上が必要**

(4)水素エネルギーの産業化の促進
- 県内における水素の利活用の実態は少ない
- 生活に身近な部分での水素利活用は，まだ始まったばかり

→ **関連産業への関心を高める取組等が必要**

(5)水素エネルギーに対する理解の向上
- 水素エネルギーの認知度，理解度の不足
- 水素エネルギーに対する誤解も少なくない

→ **水素の受容性を高め，有用性や安全性などの認知度を高める取組が必要**

## 推進プロジェクト（案）

## 推進スケジュール

- 以下の５つのプロジェクトの実施を検討。先導的な事業として，FCV導入と水素ステーション整備を重点的に実施
- 今後，５年から１０年程度先を見据えて，以下のスケジュールで実現を目指す。

### ❶ ＦＣＶ導入促進プロジェクト【重点】

(1) 普及初期におけるＦＣＶの導入支援
(2) 公用車としての率先導入　【H27】
(3) ＦＣバス及びタクシーやレンタカーとしての導入促進
(4) ＦＣＶによるカーシェアリング事業等の導入支援

県内への水素ステーション整備と歩調を合わせて実施。

ただし，ＦＣバス及びタクシーやレンタカーとしての導入促進については，対象車両の実用化の時期なども考慮。

### ❷ 水素ステーション整備促進プロジェクト【重点】

(1) 普及初期における水素ステーションの整備助成
(2) 水素ステーション設置の誘致活動の展開　【H27】
(3) 設置場所の情報収集･情報提供　【H27】
(4) 再エネを活用した水素ステーションの設置　【H27】
(5) 整備補助金の拡充等に関する国への要望　【H27】

平成２７年度中から設置に向けた取組を実施し，できるだけ早期の商用水素ステーションの設置を目指す。

### ❸ エネファーム等普及促進プロジェクト

(1) エネファームの普及啓発に向けた取組　【H27】
(2) エネファームの導入支援
(3) 公共施設への定置式燃料電池の導入促進
(4) 業務･産業用燃料電池の普及啓発･導入支援

平成２７年度中から検討し，平成２８年度以降の実施を目指す。
ただし，普及啓発に向けた取組は平成２７年度中から進めていく。

### ❹ 水素エネルギー産業等応援プロジェクト

(1) 研究会･勉強会等の実施（大学等連携）
(2) 水素利活用に関するニーズ調査等の実施
(3) 水素･燃料電池関連産業の誘致の促進
(4) 再エネを利用した水素製造技術等の支援

平成２７年度中から検討し，平成２８年度以降の実施を目指す。

### ❺ 水素エネルギー普及啓発プロジェクト

(1) 有用性や安全性に関する知識の普及啓発　【H27】
（イベント開催や広報媒体による普及啓発）
(2) FCV,エネファームの普及啓発に向けた取組　【H27】
（見学会，試乗会等の実施）

平成２７年度中から進めて行く。

## 推進体制

- 再生可能エネルギー等･省エネルギー推進本部
- 再生可能エネルギー等･省エネルギー推進本部幹事会
- 水素エネルギー利活用推進プロジェクトＷＧ

連携

みやぎＦＣＶ普及促進協議会（関連企業等１５団体）